



第2回：日本文学史概観

	時期	主な内容	授業で扱う主な内容
上代	5C後半 8C	<p>★文学が生まれ、文字で記されるようになる</p> <p>文学の原型…神々への祈りの言葉 湧き出る感動</p> <p>ムラからクニへ 言語表現の統一 →歌謡 神話の誕生</p> <p>漢字の伝来(from 渡来人)…歌謡 神話を文字によって書き留めるように →万葉がな(=中国の文字)で日本語を記す…口承文学から記載文学へ</p> <p>古代国家の完成(ex. 710 平城京遷都)</p> <p>→史書や地誌の編纂…天皇中心の国家体制の確立や国威の誇示</p> <p>漢詩文や和歌の流行…懐風藻 万葉集</p>	<p>第3回：「ことば」を残した人々</p> <p>古事記 日本書紀 風土記</p> <p>懐風藻 万葉集 歌経標識</p>
中古	9C 9C後半 10～11C 11C後半	<p>★平安貴族たちの文化 漢詩から和歌へ</p> <p>794 平安京遷都…律令制の立て直し 中国文化の摂取・模倣</p> <p>→漢詩文が公的な文学として隆盛 漢詩勅撰集の編纂…国風暗黒時代</p> <p>撰閣政治+894 遣唐使の廃止→国風文化</p> <p>かな文字の発明</p> <p>→①和歌の復興 歌合の流行…古今和歌集などの勅撰和歌集</p> <p>②自由な散文表現…作り物語 歌物語 日記文学 女流文学 etc.</p> <p>しかし源氏物語以降、物語は衰退・行き詰まり</p> <p>+貴族社会の退潮(院政 平氏政権樹立) →歴史物語 説話へ</p>	<p>第4回：「日本人」のことば</p> <p>漢詩集(凌雲集 文華秀麗集)</p> <p>和歌集(八代集 和漢朗詠集)</p> <p>物語(竹取物語 伊勢物語 宇津保物語 源氏物語)</p> <p>説話(日本霊異記 今昔物語)</p> <p>歴史物語(栄花物語 大鏡 今鏡)</p> <p>日記(土佐日記 枕草子 更級日記) etc.</p>
中世	13C	<p>★貴族の没落⇒武士・庶民の台頭</p> <p>貴族政権の無力化 →王朝文化への復古的傾向…和歌の継承 擬古物語</p> <p>末法の世・新仏教 →無常観</p> <p>源平の争い以後の戦乱</p> <p>→①戦乱の記録…軍記物語 歴史論</p> <p>②現実を拒否、離脱した隠遁者の増加…仏教説話集 隠者文学</p> <p>地方社会 民衆社会の発展…説話文学 連歌 狂言 御伽草子 小歌</p> <p>→都市間の移動の増加…紀行文学</p> <p>戦乱を避け、京都の貴族や文化人が地方に集まる…地方の文化レベル up</p>	<p>第5回：「無常」の時代</p> <p>和歌集(新古今和歌集)</p> <p>歴史物語(水鏡 増鏡)</p> <p>軍記物語(平家物語 太平記)</p> <p>史論書(愚管抄 神皇正統記)</p> <p>随筆(方丈記 徒然草)</p> <p>説話(宇治拾遺物語 十訓抄)</p> <p>歌論(近代秀歌 無名抄) etc.</p>
近世	17C ～18C初 ～19C中	<p>★泰平の世の中・文学の大衆化</p> <p>文治政治…庶民の教育水準 up(ex. 寺子屋) →文字が読める！</p> <p>木版印刷術の進歩…大量の版本の供給 →読むものが与えられる！</p> <p>⇒文学が庶民のものに！身分は低いが経済力はあるもんねw</p> <p>※武士階級の文学者だっているよ…近松門左衛門 松尾芭蕉</p> <p>文化の中心は享保年間(1716-35)を境に上方(京都 大阪)から江戸へ</p> <p>【上方文学期】…戦乱後の安定期。西鶴 芭蕉 近松門左衛門などが活躍</p> <p>【江戸文学期】…大衆化進む。黄表紙 洒落本 読本 滑稽本 人情本 狂歌</p>	<p>第6回：上方から江戸へ 町人のパワー</p> <p>小説(仮名草子 浮世草子 黄表紙 合巻 洒落本 読本 滑稽本 人情本)</p> <p>俳諧・川柳・紀行・浄瑠璃</p> <p>国学(万葉考 古事記伝 源氏物語 玉の小櫛) etc.</p>



	主な内容	授業で扱う主な内容
近代散文 I	<p>★明治維新…封建体制の打破・文明開化⇒文学にも新時代の気風を！</p> <p>江戸末期の戯作文学 伝統的詩歌の流れをくむ作品</p> <p>↓</p> <p>翻訳小説 政治小説(…自由民権運動の影響)</p> <p>↓</p> <p>写実主義・浪漫主義…西洋に学び新たな表現方法を模索</p> <p>言文一致運動のたかまり</p> <p>vs 擬古典主義…欧化熱の反動 日本の古典文学(西鶴とか)を再評価</p> <p>↓</p> <p>自然主義…人間・社会の現実を客観的に描写</p> <p>vs 反自然主義…精神を重んじる 感覚・感情を重視</p> <p>vs 新現実主義…現実を理知的にとらえ技巧的に表現</p>	<p>第7回：「新しい文学」を求めて</p> <p>啓蒙文学 戯作文学 翻訳文学</p> <p>政治小説 写実主義 擬古典主義</p> <p>浪漫主義 自然主義 反自然主義</p> <p>高踏派 余裕派 白樺派 耽美派</p> <p>新現実主義 奇跡派 新思潮派</p> <p>私小説</p>
近代散文 II	<p>★二度の世界大戦による影響</p> <p>1914 第一次世界大戦／1917 ロシア革命(社会主義政権の誕生)／1923 関東大震災 etc.</p> <p>→環境の変化…文壇にも新しい風を！</p> <p>①プロレタリア文学…社会不安に伴う労働者と資本家の対立</p> <p>②芸術派…新たな文体・表現法(擬人法, 比喩 etc.)を模索 芸術的に</p> <p>1931 満州事変…戦争へ</p> <p>→言論・思想の弾圧…プロレタリア文学崩壊</p> <p>①転向文学…プロレタリアからの転向の苦しみを</p> <p>②文芸復興…既成作家の再活躍</p> <p>戦争の激化→戦争文学・国策文学</p>	<p>第8回：うねる時代の中で</p> <p>プロレタリア文学 (文戦派 戦旗派) 芸術派 (新感覚派 新興芸術派 新心理主義)</p> <p>転向文学 文学界 日本浪漫派</p> <p>人民文庫 戦争文学 国策文学</p>
現代	<p>★言論・表現の自由の回復→多様な文学作品がうまれる</p> <p>1945 終戦</p> <p>大家の復活…永井荷風、谷崎潤一郎 etc.</p> <p>新戯作派…戦後社会=権威と秩序の崩壊→一切の権威を認めない反俗無頼の精神</p> <p>戦後派…戦後のはじめて文壇に登場した新世代の作家</p> <p>一次) プロレタリア時代の獄中体験や戦争体験</p> <p>二次) 1950 朝鮮戦争を背景に</p> <p>第三の新人…日常的世界を重んじる</p> <p>社会性を持つ若い作家・女流作家が活躍</p> <p>マスコミ時代の到来</p> <p>→文学の大衆化…大衆文学・中間小説(大衆小説と純文学の間)</p> <p>社会が豊かで複雑に</p> <p>→自己の存在を問う…内向の世代</p>	<p>第10回：敗戦そして多様化</p> <p>新戯作派(無頼派) 風俗小説</p> <p>第一次戦後派 第二次戦後派</p> <p>第三の新人 社会派作家</p> <p>女流作家 内向の世代</p> <p>戦後世代の活躍</p>



【補足コラム：時代区分について】（大学で文学を学ぶ人向け！）

講義の中で「近代の分け方はいろいろある」と説明しましたが、学問としての文学史を学ぼうとすると、さらに多様な区分がみられます。

たとえば、『日本古典読本』¹では、上代を「古代前期」、古代を「古代後期」と名付けていますし、『日本文学史』²では、「古代は五世紀ごろから八世紀ごろまで、また中世は九世紀ごろから十九世紀中ごろまで、近代は十九世紀後半よりのちに当たる」と述べられています。

要するに文学史の時代区分というのは、「文学史にとって『最初の問題であるとともに最後の問題でもある』」³し、このような時代区分は、わたしたちが文学史を勉強するときの「便宜のため」⁴でしかないわけです。（せっかく今回の講義を聞いて勉強したのに、まじかよ…って気分ですけどね。苦笑）

ま、受験のために勉強するときは、この講義のような分類が一般的ですし、もっとも効率がいいわけです。もっとも研究してみたい人は、大学に入ってから、いろいろ本を読んでも面白いですよ☆

¹ 秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男『日本古典読本』（筑摩書房、2011年）

² 小西甚一『日本文学史』p.18（講談社学術文庫、2012年）

³ 同書 p.13

⁴ 同書 p.13